

令和元年度奈良県男女共同参画審議会 議事録概要

- 日 時：令和元年11月1日（金）14:00～15:30
- 場 所：奈良県文化会館2階 集会室A・B
- 出席者：男女共同参画審議会委員（委員15名中、11名出席）
中川幾郎委員（会長）、須崎康恵委員（会長職務代理）
梅田直美委員、大向美保委員、瀧井智美委員、西村拓生委員、堀内大造委員、
松谷操委員、山崎靖子委員、山村吉由委員、山本忠行委員
- 議 題：（1）奈良県の男女共同参画・女性活躍推進等の現状について
（2）「奈良県女性の輝き・活躍促進計画」について
（3）男女共同参画・女性活躍推進施策の今後の方向性について
- 質疑応答・意見内容
 - 【議題（1） 奈良県の男女共同参画・女性活躍推進等の現状について】
 - 【議題（2） 「奈良県女性の輝き・活躍促進計画」について】

<西村委員>

- ・現時点での計画の進捗状況を、総体としてどのように評価しておられるのか。

県回答

- ・男女共同参画の視点で言えば、その一番のデータが固定的性別役割分担意識になると思うが、そこはまだまだという部分があると思う。奈良県の女性の就業関係では、就業率は全国一低いままだが、伸び率が全国一になった点と、第一子出産後に仕事を辞める人が1割減ったという点で、かなり良くなったと思っている。

<堀内委員>

- ・男女共同参画計画について、県は具体的な目標を持っておられるのか。女性の就業率が低いということだが、全国一を目指しているとか、あるいは真ん中までとか、あるいはただ単に今よりも順位が上げればいいのか、そういった具体的な目標は何かあるのか。

県回答

- ・資料2が計画の進捗を図るもので、アウトカムが計画の目指すところ。性別役割分担意識であれば、目標値がR2年度に40%にする、また、女性の就業率は70%にするなどの目標値がある。

<松谷委員>

- ・働きたい女性と企業のマッチングが進まないが、保育所の数的には間に合ってきているのか。

県回答

- ・待機児童は奈良県全体としてはまだゼロにはなっておらず地域差はあるが、都市部では、奈良市や生駒市等が中心だが解消できていないので、奈良県として大きな課題だと思っている。新しい動きとしては、今年度、待機児童がいるいくつかの市町村と共に、待機児童解消のための協議会を立ち上げてい

る。そこで県が広域的な立場として、こういった取り組みで市町村における待機児童解消を支援していけば良いかを一緒に話し合い、具体的な取り組みを進めていこうと思っている。市町村の力も借りながら、待機児童の解消に力を入れていきたいと思っている。

<山崎委員>

- ・奈良県はM字曲線が激しいというのは以前から聞いていたが、少しは緩くなったということで、嬉しかったという感想がある。
- ・働き続ける時にネックになるのは、本当に預けられるのかという待機児童問題だと思う。自分の家の近場で自分の子供を安心して預けられないと働くのが大変なので、何とか市町村あげて頑張ってもらいたい。
- ・若い時は1時間かけて大阪まで通えても、子供を預けるのは相当しんどいと思う。近い所で働き続けられる仕事先があるのかという疑問もあり、生駒や香芝では、かなりの方が大阪方面へ働きに出ている現状があると思うが、さらに東の方になると、なかなか働き先がないという現状がある。働き続けるということが現実問題かなり難しい。働き先があったとしてもパートやアルバイトでは、働き続ける意欲にもつまずきがあるのではと思うので、さらに環境改善に繋がってほしいと思う。

<山村委員>

- ・女性の就業率が上がったとご報告頂いているが、世帯あたりの所得から評価がされている分析はあるのか。子どもの貧困が増えていると言われており、「ひとり親家庭＝子供の貧困」という定義が出てくるようにも思ったので、その辺りの調査分析があれば教えていただきたい。

県回答

- ・働いておられない専業主婦が多いということで、収入が高いのではと考えていたが、奈良県全体として平均すると、それほど高くはないので、もう少し研究する必要があり、今回データはお出ししていない。
- ・5年前の県の調査結果によれば、ひとり親家庭は女性の場合、約90%が就労されている。また、就労されている中で約半数が収入約200万円未満という低所得の家庭が多い、という結果が出ているので、特に女性のひとり親家庭の子供達は子どもの貧困に繋がっているのではないかと考えている。さらなる対策が必要と思っている。

<山本委員>

- ・老人福祉施設では女性職員が多く、産休・育休を取って期間満了して復帰、という人はほぼ100%の状況。普段見ているのがそういった状況。ついこの間復職した方で、本来復職を希望していた月よりも2ヶ月遅れた事例があった。それは受け入れてくれる保育所が見つからなかったということで遅れてしまったのだが、ほぼみんな復帰してくれている。そのこととこの会議の中で再三話題に上る固定的役割分担意識と、普段接している人たちとの問題意識に違いがある。そのことを調べたり聞いたりする必要があるので感じた。

<大向委員>

- ・奈良県は専業主婦の割合が高いが、私は曾爾村在住だが、私の周りではほぼ100%に近い女性は働いている。待機児童はもちろん0だし、そう遠くまで働きに行けないので、近くで働いている。環境が整っているから就業率が高いのかと、皆さんのお話と説明を聞いて感じた。

<須崎会長代理>

- ・男女共同参画に関する計画の策定状況を拝見し、奈良県内の市町村のところで策定率が33.3%と非常に低いというのは何を意味し、どのような不都合があるのか。男女共同参画の計画策定率が全国46位そのままが良いとは感じられない。県が主導で取り組むことも大切だが、やはり日々の暮らしはその人の住む市町村に大きなウェイトがあるので、その市町村の男女共同参画の取り組みが進んでいないと、なかなか全体として進まないのかなとも思う。

<瀧井委員>

- ・女性活躍が進まないのは、長時間労働を前提とした働き方と、いわゆる固定的性別役割分担意識の根強さがものすごいということを感じた。
- ・働きたいが働いていない人の声を聞くと、どう考えても自分の中の思い込みが相当あり、女性自身が相当自分の可能性を狭めている気もするし、企業側も女性は意欲が低いようなことを書いているが、これも企業側も思い込みがあるのかなと思っている。マインドのところでは目標値を掲げておられるが、この固定的性別役割分担意識を払拭するために予定している具体的な取り組みはどのようなものか。

県回答

- ・マインドなので、意識啓発では女性センターで男女共同参画の拠点としての取り組みをしており、相談件数も年間3,000件以上ある。性別役割分担意識の払拭で、これをやれば払拭できるということはないかなかないが、企業の意識を変えていくところも、今は人手不足で企業は女性に活躍してもらえない現実もあるので、それは追い風になると思っており、意識啓発を進めている。
- ・奈良県は様々な面があり、企業の他府県出身の方は奈良県の女性は子供ができたなら仕事を辞めると驚かれていたが、奈良県は、そのようなことが文化のように根強くあるのかもしれない。専業主婦をしていて仕事がしたいと思っている方は、福祉関係がきつそうに思っているが、実際に福祉関係の企業や団体等で働いている方は、お互い様精神もあって働きやすい感想を持っており、辞めない方が多い。企業が働き続けて欲しいと言っている今こそチャンスだと思っている。

<瀧井委員>

- ・企業への働きかけも非常に重要だと思う。その企業や管理職の方が持っている思いこみは普段の言動や態度に出るので、その企業や管理職の方が「子供が生まれたら女性で大変だよな」などと無意識に言うことで、「子供を持ったら働き続けるのは大変ですよ、だからやめます。」みたいなことに繋がっていく。周りが、企業や管理職がどのような思い込みを持ち、普段どのような発言を無意識にしているかに気づかないと、おそらくそこは直せなくて、それが刷り込まれていく。企業が女性活躍を進める時に一番言われるのは、無意識の思い込みに気づき、その言動を改めるトレーニングをすること。実際私も

そういう事に関わっているが、女性についても同じ。女性も「育児は私の仕事」と思っており、結局パートやアルバイトを希望する、休みやすい所で働きたい、そして事務職を希望する。事務職が本当に休みやすいかといえば違う。むしろ営業やサービス業といった、さまざまな業種を女性が知らないのも、自分で選んでいるように思っているかもしれないが、選択肢が少ないことも非常に多い。正社員かパートやアルバイトだけの二つの選択肢しかないのではなく、短時間正社員もあるし、いろんなパターンを知って他の選択肢もあることを企業が見せないと、多分マインドの所はなかなか気づけない。意識啓発が一番難しいが、ここがないと一番ネックになるのではと思う。

<松谷委員>

- ・女性がどんな結婚観を持っているか、子育てについてどのような意識を持っているのかということ調査されたものはあるのか。子供を産み育てるまでの意識はやはりしんどいという意識なのか。

県回答

- ・奈良県の若者の結婚に関する意欲は全国並み。子育てに関する印象として、楽しそうと思っている人は2割程度だが、結婚はしたいと思っている。結婚したくない訳ではないという結果になっている。

<西村委員>

- ・固定的性別役割分担意識のことで、学校教育との連携というのはこれまで意識に入っていたのか。意識改革を進めていくうえでは注目すべきところだと思う。
- ・奈良県全体として、まとまりとして見ても見えない所があるのではと感じており、南部の中山間部と北部西部の大阪周辺では同じ学校の課題でも全く違った質のものがある、というようなことがよくあり、同じようなことがあるのではと思った。例えば奈良県の南と北では、意識改革のところでは多分アプローチが違うと思うし、クラスターを分けて分析し、施策を考えることがおそらく必要になると思う。
- ・例えば両親共高学歴で共働きでかなり収入がある家庭の意識と、ひとり親の家庭のところでは男女共同参画を阻む要因も違うと思うし、意識がなぜそうなるかという基盤も相当違うと思うので、クラスターを細分化して分析する、そして施策を考える、というのが今後必要になってくると思った。

県回答

- ・性別役割分担意識の学校教育との連携が取れているかという点について、女性センターの取組として男女共同参画の意識を啓発するために、今年度は初任者の先生や中堅の先生を対象に、男女共同参画の意識啓発の研修を行っており、先生方の無意識の中で、「男の子はこうだ」「女の子はこうだ」などといった発言がないようにとか、改めて先生方に男女が平等だということを再認識していただく講座も行なっているところ。

【議題（3） 男女共同参画・女性活躍推進施策の今後の方向性について】意見及び質疑応答

<大向委員>

- ・村の計画策定支援の取組は素晴らしいと思ったが、曾爾村は手をあげなかったということで残念。村に

帰って教育委員会の会議でも話したい。

<須崎会長代理>

- ・市町村の策定支援のことは非常に素晴らしいと思う。各地で皆さんが活躍できるように県が支援しておられることに本当に感服している。私は毎年、広陵町の小学生が自分の将来の夢について書いた文章を読んでいるが、子供たちが将来何になりたいかといえば、女の子で主婦やお嫁さんと書く人は小学生ではない。いるとしても、全学年の中で一人ぐらいで、みんなそれぞれ職業を書いている。それが中学校や高校でどのような男女共同参画の意識になっているのかと思う。
- ・小学校は女性の教員も多く非常に男女共同参画が進んでおり、ジェンダーの教育やマイノリティに対する教育も進んでいる。教育、男女共同参画に対しての考えやジェンダー、マイノリティの教育を、中高生に対してどんな有効な方法があるかについて検討が必要だと思うが、その辺りに力を入れていただければと思う。これだけ大学の進学率も高く優秀な女性がたくさんいるので、奈良県は本当に人材の宝庫ではないかと考えている。
- ・奈良県の男性は平均7時46分に帰ってきて1日50分も家事もしているということは大変なことだと思ひ、どちらか片方に負担をかけるのではなく、男女がともに働き、ともに子育てすれば、男女ともに満足感を得られる、そんな次世代を育ててほしい。

<瀧井委員>

- ・私は、今年大阪市の女性活躍リーディングカンパニー認証企業の人たちの勉強会を担当しており、今年のテーマがアンコンシャスバイアス。無意識の思い込みをどう払拭するかについて、一年かけて取り組んでいる。そこでは経営者が経営戦略として捉えていないケースや、今まで出てきた固定的性別役割分担意識の根強さ、成果を出すためには長時間働かなければならないといった、そういう思い込みがないかという、経営者の思い込み、管理職の思い込み、女性社員の思い込み、男性社員の思い込みをいろんなケーススタディを用いて自分たちにある思い込みを確認する、ということをやっているが、結構皆さん目から鱗の状態。自分はそうだと思っていたし無意識だったが、それって本当？みたいなことがあるので、その思い込みを確認する取り組みは有効。
- ・来月育休復帰セミナーをするが、そこに登壇する人は夫婦で育休を取った人。今までのセミナーは女性で育休取った人の話を聞くというのがあるが、今回のセミナーは夫婦でパパママ育休プラス等を使った夫婦が登壇し、参加者も女性も男性も対象。育休も女性だけを対象にしないことが大切で、相談側も女性だけにしないのも大事なと思う。

<西村委員>

- ・同じ奈良県でも、たとえば天川村と生駒市ではずいぶん違うから、そこに対する政策はかなり変わってくるのだと改めて思った。

<松谷委員>

- ・色んな計画があると思うが、町村議員にも女性が入っておらず議員が男性ばかりというのが奈良県だと思うので、女性ももっと自分たちの町や村を良くしていくというところに声を上げていけるような

意識変革ができれば良い。また、移住者の方と一緒に新鮮な意識変革をし、バラエティに富んだ計画ができればよい。

<山崎委員>

- ・私は女性センターでも法律相談担当をしており、他の所でも法律相談をさせていただいているが、DV相談は被害者・加害者両方とも、暴力に対するハードルが非常に低い。加害者は当然低く、自分がやっていることは暴力ではないと思っている、あるいは自分が暴力を振るってもいいと思っている。被害者の方も、自分はDVではないと思ひ込もうとしている。
- ・いずれにしても、啓発活動や教育活動が必要。特に高校生ぐらいになれば、例えば彼氏が彼女の携帯の履歴やLINEを全部チェックするとか、気に食わなければ携帯を壊すとか、あるいは自分の携帯を相手に持たせて管理しようとするとか、それらも明らかにDVだが、加害者も被害者もそれがDVだという意識がない。女性センター等が出張講義しているということなので、どんどん進めていただきたい。
- ・性被害の方もやっとNARAハートを作って頂いたが、被害者が本当に情報をキャッチできているのかが不明。大阪のSACHICOと言う大きな性暴力救援センターが歴史も実力もあり、まずそちらに相談に行くという方もいるので、被害者の手に届くような形で発信し、被害者の本当に相談しやすい所、相談に行ったら安心して、継続して支援が受けられるような拠点にしていきたい。
- ・特に性被害で、まずやっていただきたいのが性病対策と妊娠の防止。そのお金というのは健康保険が使えないので大変価格の高い緊急避妊薬が必要となる。また、加害者の方の教育にも力を入れられるようにしていただければと思っている。

<山村委員>

- ・広陵町は計画が定められていて良かったと思っている。広陵町も計画ができたのは県に町職員を受け入れていただき、研修をさせていただいたということと、議会の女性議員から男女共同参画行動計画を策定しなさいという質問もあった。県から町村の議長会や町村会に対して、働きかけをするのも良いのではと思う。
- ・大阪方面に勤めておられるので、勤務先の企業でこのような勉強会がどのようにされているのか、我々が住民として男女共同参画を啓発することとしても、十分伝わっていくかどうかが心配なので、勤務先の大阪の企業にもどのような働きかけができるのかということと、大阪府と連携するといったことも必要ではないかと思う。
- ・私達の職場内では、女性職員が結婚すると辞めないように常に言い続けている。男性も育児休業を最近とり始めており、約4名が経験している。広陵町は管理職も女性職員が県内の町村の中では一番多いのではないかと考えており、これからさらに男女共同参画を推進していきたいと思う。

<山本委員>

- ・女性が働きたいが働いていない理由の仕事へのイメージのところ、福祉系や製造業サービス業はしんどそうとあり、非常に実感するが、そういうイメージが強いだらうと思っている。
- ・我々は介護職の「3K」のイメージが相変わらず強いため、介護の仕事のしんどいところよりも楽し

いとか面白いところ、そこから入ってもらえるような職種を作ろうということで、利用者の方々と楽しく話をさせていただき、一緒に食事を食べてもらう、手引き誘導だけ、車椅子を動かすだけ、食前食後の準備や後片付けをするだけ等、ケアヘルパーと呼んでいる職種を設けると、高齢の方や、やったことはないが興味はあった方等が入ってきてくれた。そういう方々がいざやってみると、「そんなに難しくない」とか、あるいは、他の介護職の人と同じ仕事がしたい、となることがあり、ケアワーカーにランクアップされるケースもある。企業側からの発信も必要。

<中川委員>

- ・女性の再就職の阻害要因である「企業側と女性の思いのミスマッチ」を元に、企業をターゲットとした戦略を精密に組立ててもらえればと思う。最後におっしゃっていた介護の現場というのはそんなに悲惨で大変ではない、もっと楽しいことがある、みたいなこともむしろ訴えられたら、そういうパンフレットを作られたら、というような提案も県からしても良いのではないかな。
- ・ミスマッチがはっきりしている。みんなが事務職を希望している。事務職は楽だと思っている。ところが事務職は神経労働でもあることを忘れている。
- ・町村における女性の職員登用の実績は非常に重要で、これはある意味、行政改革。女性の力がなければこれからの役所経営は無理だということをはっきり伝え、女性にもその自覚を求めることが必要。そのような文化改革は、町村こそやりやすいのではないかなと思う。組織のコンパクトさはむしろ利点になる。そういうところこそ、男女共同参画計画を持って、総力戦で役所を作り変えていきたいと思いますという運動を起こしやすいと思う。それで1年ごとに計画の進捗を出してもらって、クリアできていないところは分析していけばいいと思う。
- ・私は大阪府の人事委員も務めており、男女共同参画の視点での職員採用試験のチェックも行っている。パンフレットも全部チェックをかけている。男女共同参画に反する写真はないかということで、今まで技術職の募集の写真は、これまでみんな男ばかりだったが、女性の技術職もいるのだから女性も入った写真を掲載するなど、工夫すると、応募される方も女性が結構来る。今日、職員採用で技術職は民間にみんな取られてしまうので、なかなか採用しにくい。そういうところを少し工夫すればいいと思う。